

細径鋼管柱用2号B自在バンドの開発

*提案者：(株)ミライト・ワン
みらいビジネス推進本部
みらいビジネス推進部
テクノロジー部門
高橋 信

【概要】

現状、NTTアクセス工事において、細径鋼管柱にL型金物を取り付ける際に2号B自在バンドを使用することがあります。

しかし、元々細い物に巻く構造になっていないため、細い細径鋼管柱に2号B自在バンドを巻く作業は通建各社の作業員が大変苦勞しています。そのため事前に工具を使用して2号B自在バンドを曲げておく必要が

あり作業効率が非常に悪くなります。

さらに2号B自在バンドを止める際にフックを引っ掛けますが、フックの可動域が狭いためうまく引っ掛からない等の問題があります。足場の悪い架空作業で余計な力を入れることで、怪我や、工具を落下させる等のリスクが増大します。

本開発品は2号B自在バンドのベルト部に穴を増やし、曲がりやすくする事で取付けが簡単になります。さらにフックの可動域を増やすことで、フックを調節穴に簡単に引っ掛けることができるようになるため、作業効率が向上すると共に、危険要因の減少にも寄与できます。

【効果】

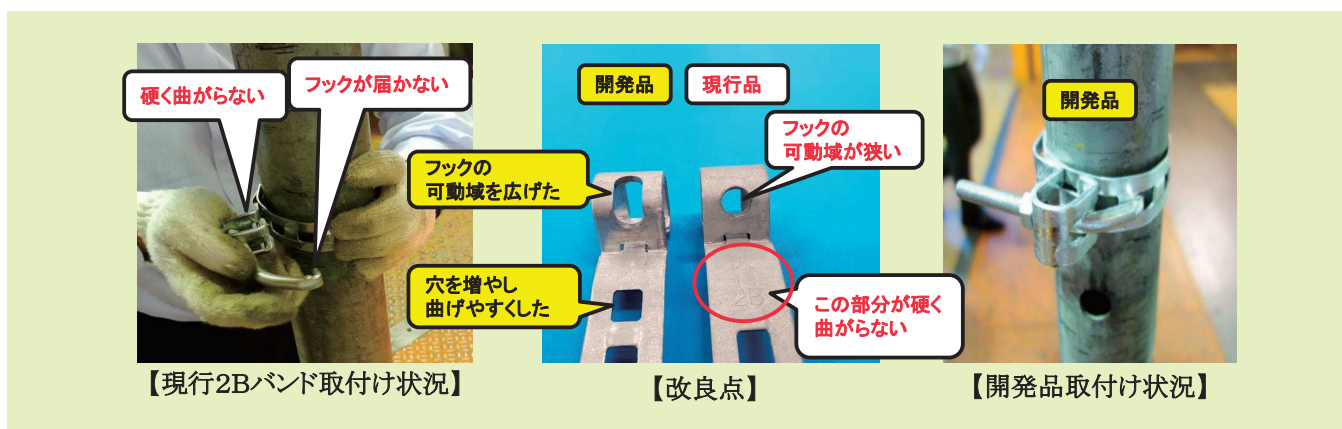
- ・作業時間が1/2になり作業効率が大幅に向上します。
- ・余計な力をいれず、スムーズに取付け可能なため安全性が向上します。

○本発明はNTT東日本VE提案B採用。

VE提案1ポイント相当500万円の特命工事受注の権利を獲得、さらにNTT物品規格書品に採用されました。

現行の2号B自在バンドの代替品になるため600,000本/年の販売が見込め通建業界全体へ普及することが期待できます。

*エクシオグループ株式会社、イワブチ株式会社と共同開発



中間引留工法の統一化

*提案者：(株)ミライト・ワン
CWC NTT事業本部DX推進部
DX推進部門
浦川 幸司 (代表者)
☎06-6684-8136

【概要】

ドロップ光ファイバ、地気線、屋外線の中間引留工法の統一化を図り、品質および安全性の向上を図った提案です。

現状の問題点は

- ①ドロップ光ファイバ、地気線、屋外線の中間引留工法が異なるため、施工誤りが発生しやすい。
- ②屋外線の中間引留工法では、家屋側に配線される屋外線の支持線が、屋外線引留具のフック部へ1回巻きでの固定となるため、ダンシング等による支持線の破断が懸念される (写真1)。

その問題点を解決するために、ドロップ光ファイバ、地気線、屋外線の中間引留工法を統一することにより、施工不具合の撲滅、品質および安全性の向上を図りました。

【特徴】

1. 中間引留工法に適用する部材 (材料) および工法を統一し、施工誤りの抑制を

図ります。

→家屋側への配線については、屋外線引留具を「2個」適用し配線します (写真2)。

2. 中間引留工法の支持線の余長処理方法

を統一し、張力による緩みや抜けを防止し、安全性の向上を図ります。

→屋外線引留具のフックに「2回」巻き付け、裏側で突起物が出ないように切断します (写真3)。

